



長くつをはいたねこ★

ペロ-童話集
イラスト オガワ ナホ

ある日、こな屋の主人が死んだ。

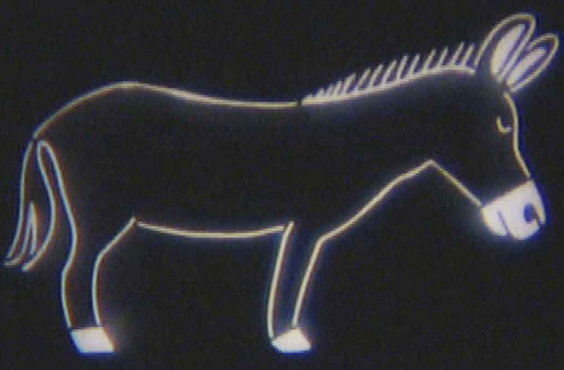
のこされた三人息子へのざいさんは、
こな引き小屋と、ロバと、ねこだけ。

上の息子は、こな引き小屋を自分の
ものに。

まんなかの息子は、ロバを自分のも
のに。

そしてすえの息子は…、

そう、のこりもののねこを手にした。



(チユンチユン)

ねこ「ふああ…。(あくび)」

すえっ子「はあ、兄さんたちはいいよな。ねこなんて、

その肉をやいて食べたらのこった毛でえりまきを

作って、それでおしまい。

ぼくはそのままおなかをすかせて死んじゃうだけだ。」



すると、ねこがしゃべりだした。

ねこ「ご主人さま。ここはわたしにおまかせを。

ふくろをひとつと、長ぐつを用意してください。

なに、心配ご無用。

そうすりゃ、すぐてうまくいきますよ。」

ならばと思い、この
ねこのいうとおり
してみることにした。



もらった長ぐつをはき、ふくろにはウサギを
つかまえるためのごちそうを入れて、ねこは
森へとかけた。

ねこ「ウサギさん、
いらっしやい。」

（ガサゴン。）

近づいてきたうさぎ。

ねこ「はっ。」

ねこは、ふくろの
そばにね転がり、
死んだふりをして
ウサギを待った。

ねこ「さあ、さあ、
それ！」



え物のうさぎを持って、ねこは

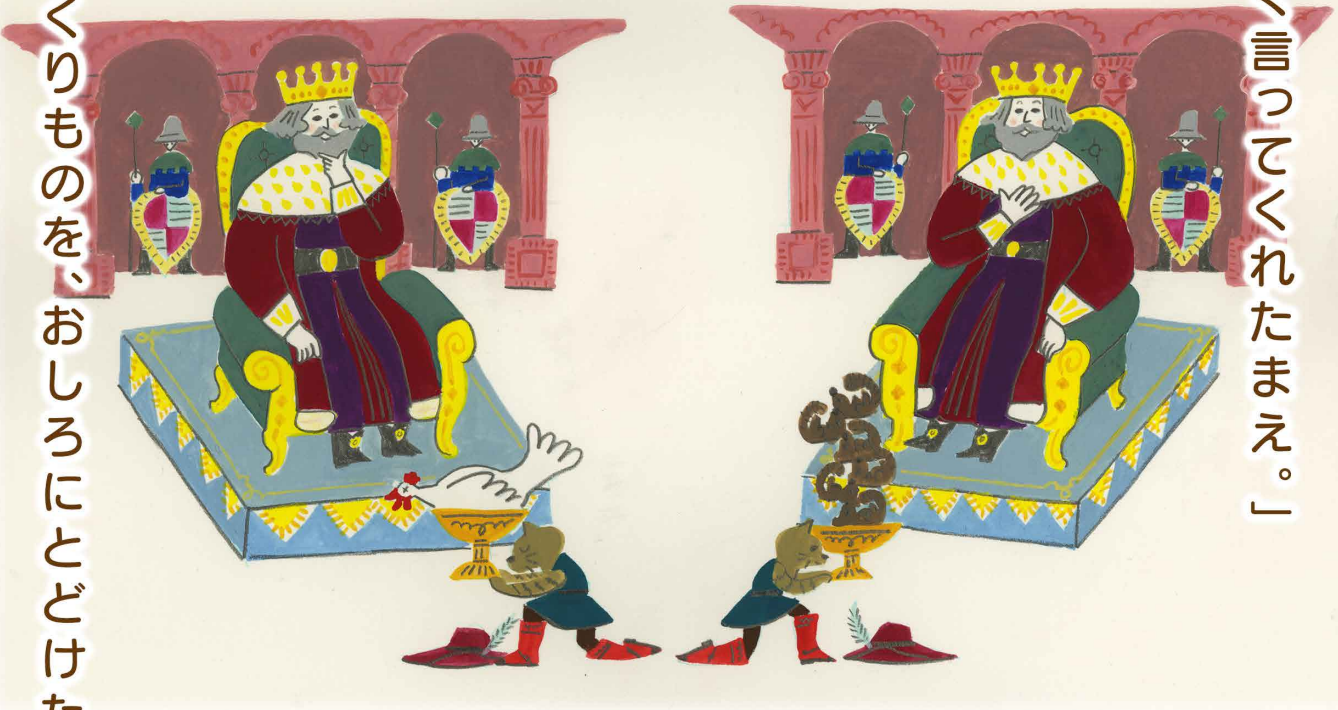
王様のごてんへとでかけていった。

ねこ「王様！このうさぎはわたしの主人である

カラバこうしゃくさまからのおくりものでございます。」

王様「うーん、これはみごとなウサギじゃ。

うん、ご主人によろしく言ってくれたまえ。」



ねこは何度も何度もおくりものを、おしろにとどけた。

そのたびに「カラバこうしゃくさまからのおくりもので
ございます。」とつたえた。

ある日のこと。

王様が美しいおひめさまをつれて川へ遊びにくる
ことになった。

ねこ「ご主人さま！ いますぐはだかになって川に
入ってください。悪いようにはしませんから。」

すえっ子「え、ええ？」

ねこはむりやり服をぬがして、ご主人さまを川に入れた。

（ポツチャーン）

（パツカパツカパツカ）

ねこ「王様！ たすけて

ください！

カラバこうしゃくさまが、

カラバこうしゃくさまが、

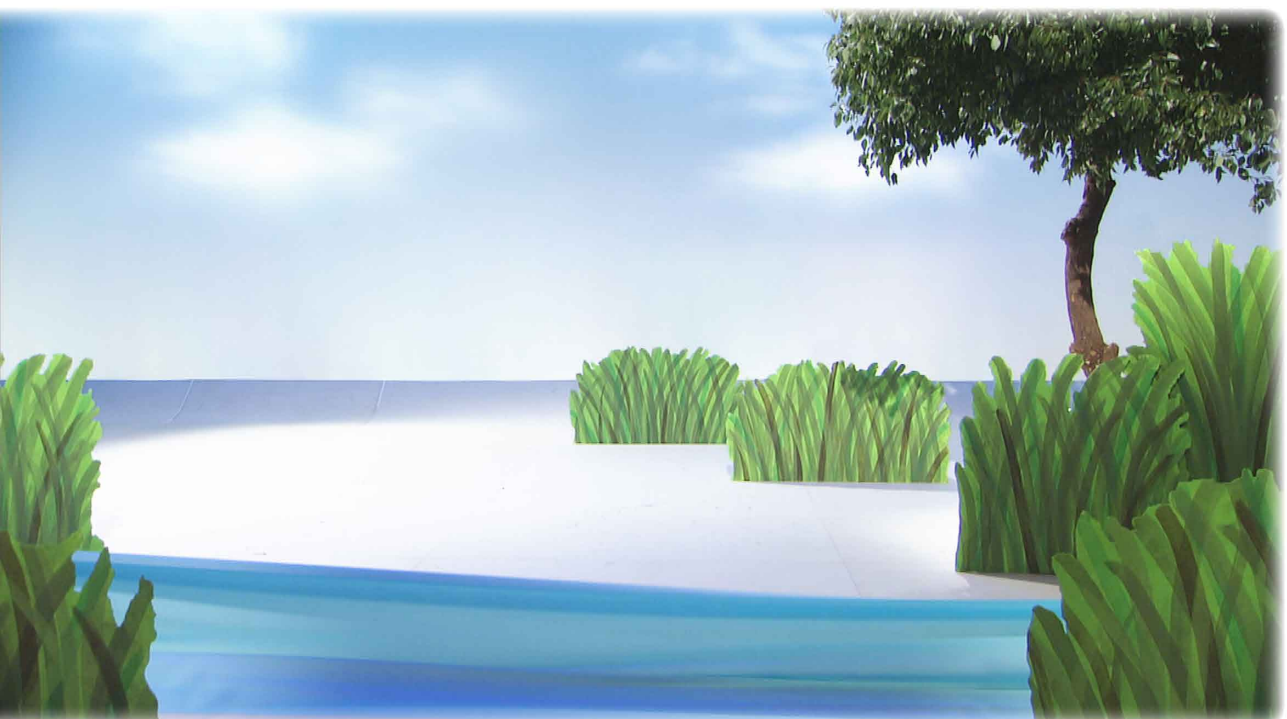
悪者におそわれて身ぐるみ

はがされたく！」

王様「いますぐカラバ

こうしゃくを、川から

お助けしろ！」



王様がくれたとっておきの服を着ると、すえっ子はとても立つぱにみえた。

すえっ子「王様、ご親切にありがとうございます。

そしておひめさま、わたしはカラバこうしゃくと

申します。」

おひめさま「まあ。ねえ、お父様、こうしゃく様と

いっしょに馬車でおさん歩いたしましょう。」



ねこは先回りして百しようたちの畑へと向かった。

ねこ「おまえたち！もしこの土地はだれの

ものかと聞かれたら、カラバこうしやく様の

土地だと答えるんだぞ。

さもないとひき肉にして食っちまうからな。」



(やってくる馬車の音)

王様「おい、つかぬことを聞くが、この土地はだれのものかな？」

百しよう「カラバこうしゃくさまのものでございます。」

王様「ほおお。」



ねこはまた先回りして人食いきよ人、ガルガンチュアの
しろへと向かった。



ねこ「(はあはあ)ガルガンチュア様、わたしはカラバ
こうしゃくさまのねこです。おうわさに聞いてます通り、
立つばなおひげでございますこと。一度ごあいさつに
あがりたいたっておりました。」

人食いきよ人「(ふっ、いいぞねこ。なにかわたしに
用事があるかな?)」

ねこ「あなたさまはどんな動物にもすがたをかえられる
とお聞きしました。」

人食いきよ人「そのとおり。ほらっ！」

(ボワワ〜ン)

(ガオ〜ツ)



ねこ「ああ、こわい。でもあなたは体が大きいから

大きなものにすがたをかえるのはかんたんですよね。」

人食いきよ人「ちっぽけなものでもなれるぞ。」

ねこ「ねずみみたいに小さなものになるのはむり
でしょう。」

人食いきよ人「おれをばかにするのか。みろ！」

（ボワワ〜ン）

きよ人はねずみにすがたをかえて、ちよろちよろ走り
だした。

（チューチュー）

ねこ「…いまだ！」

（もぐもぐ、びっくん）

（パカパカ）

ねこ「おおとつとつとつと、

（おしろの入口をみて）

おでました。」





ねこ「おかえりなさい、ご主人さま。そして王様、

おひめさま、カラバこうしゃくさまのおしろへようこそ。」

王様「なんと立つばなしろだ。」

おひめさま「わたしたちのおしろより、よっぽど立つば
だわ。お父様、カラバこうしゃくさまって本当すてきな
お方。」

すえっ子はおひめさまの手をとって王様とともに
おしろに入った。

王様「うん、うん、これはすごい。どうだいごうしゃく、
むすめのむこになってくれはしないか。」



すえっ子「はい王様、よろこんでお受けします。」

というわけで、ねこをもらったすえっ子と、そのねこは、
しあわせに暮らしましたとさ。

ねこ「ね、心配ご無用って言ったでしょ。めでたし
めでたし。とな。」



おしまいら